

第1回ラフバラ大学交流
The 1st Academic Exchange Programme with the Loughborough University
A visitor's Report

朴鍾煥

Jong-Hwan Park

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

Graduate School of Sport Sciences, Waseda University

スポーツ科学研究, 7, 80-81, 2010年, 受付日:2010年7月14日, 受理日:2010年7月14日

今回のラフバラ大学への訪問は、私が博士課程での学生生活を開始してから初めての海外訪問であった。スポーツ科学の代表的な国である英国のラフバラ大学への訪問は、私が博士課程での学生生活を送っていく上での、研究視野を広げるきっかけとなった。私にこのような影響を与えたラフバラ大学は、とても印象的で美しい大学であった。

私は韓国人である。韓国はエリートスポーツの国であり、夏季オリンピックでは、毎回、8位圏入賞を果たし、冬季オリンピックでも10位圏に入賞するほどのスポーツ強合国だ。だが、私は現在、日本で留学生活をしている。なぜならば、韓国はエリートスポーツの強合国であっても、スポーツ科学の発展は遅れており、その知識を積むことは難しいからである。また、韓国は、研究機器や研究者らの研究に対する心がけについても、他の先進国と比べてとても違う。このような韓国人である私が、日本の早稲田大学大学院博士課程に入学して、研究を行えていることはとてもうれしいと思っている。

私は早稲田大学に入学した時、色々な研究室の雰囲気、そして最新機器等を見て、このような体育学分野への研究支援や新しい機器、そして素敵な環境にとっても驚いた。一方、ラフバラ大学は、建物は新しいけれども、研究に使用

する機器は古かったが、英国の学生たちは自分たちの機器を愛する心を強く持っていた。ラフバラ大学への訪問で各研究室を見学していた時、ある女子学生が乳酸分析を行っていた。しかし、その機械は韓国にもあるものよりも、旧モデルであった。私は、このことが気になって、その学生に「このモデルは旧型ではないか」と尋ねた。するとその学生は、「旧型のモデルでも自分の研究には全く問題がない」と答え、さらにこの機械の長所を説明し始めたのだ。私はその答えや彼女の姿勢を見て、「そのとおりだ」と思った。今、早稲田大学にも多くの機器があるが、全くケアされていない。私の研究室の傍にある実験室には、生理学に使用する機器が置いてある。例えば、身長計は3個あるにもかかわらず、実は故障しているため使用することができなくなっていることを誰も知らないまま放置しているのだ。また、ラフバラ大学の博士課程の学生達はお互いに励まし合い、助け合っている姿がとても印象的であった。私はラフバラ大学の研究環境や学生同士の関係を見て、研究は機器だけを使用して実施するものではなく、研究に対する努力や姿勢が大切であることに気づいた。今回の訪問は、期間は短かったけれども、たくさんのことを学び感じることができ、早稲田大学とラフバラ大学との良好な学術交流をはかれることがで

きたと思う。

訪問3日目には、大学間の研究発表会があった。この発表会では、早稲田大学の研究もラフバラ大学の研究もとても立派であり、研究の結果や成果はどちらの大学でも同じであった。研究の環境は違っていても、研究に対する自分自身の強い思いや姿勢、そして努力が必要であり、それが研究成果にもつながっていくのだと思う。私たち学生は、研究を始めたばかりの若い人材だ。私たちは努力を惜しまずに研究を続けていれば、いつか良い成果を得ることができるはずだ。今回、英国に行くことができ、早稲田

大学で研究を進める気持ちがさらに大きくなった。これだけでも、英国のラフバラ大学に訪問した意義があったと思う。

末尾になりますが、ラフバラ大学の教授の方々と学生たちの温みのおかげで、私は初めての英国訪問を無事に終えることができました。この場をおかりして感謝申し上げます。また、この大学交流会のために苦勞されたグローバルCOE事務局の方々、そして宮下先生、今回研究発表を行わない私に訪問の許可を下さった中村先生、彼末先生に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



写真 ラフバラ大学での記念写真